

京都大学アカデミックデイ2016



Dialog with the Public

『研究者の本棚』 ブックリスト



項目説明

ブックリストとは・・・京都大学研究者のオススメの本を紹介します。

※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

ブース番号 出展者のブース番号

出展区分 「研究者と立ち話(ポスター／展示)」
「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」
「お茶を片手に座談会」

所属・職名・氏名 出展代表者の所属・職名・氏名

出展タイトル 出展研究者の出展タイトル

ジャンル ※今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本
※今ハマっている本(誰かはこの本について話したい)
※若者にお勧めしたい本
※自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。

書名／著者名／出版社名 オススメする本の書名／著者名／出版社名

推薦理由、コメント、エピソード等 オススメする理由、コメントなど

『書名』の横の★★ 『研究者の本棚』コーナーに展示あり



ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
2	研究者と立ち話（ポスター／展示）	生命科学研究所 教授 松田 道行	ネズミと会話ってできるの？	今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』★★ フィリップ・K・ディック ハヤカワ文庫 SF (229)	「フィリップ・K・ディックの作品は、『現実』の脆さや個人のアイデンティティ構築をテーマにすることが多いと一般に評価されています。本作は数ある彼のSF作品の中でも、映画化やパロディ化がなされ広く知られた作品です。彼が問いかける、「あなたの信じる現実は本当に本物か」という問い、この姿勢はサイエンスに通じるものがあると思います。彼の構築する世界観への最適導入として本書を推薦します。」
				若者にお勧めしたい本	『栄光なき天才たち』 伊藤 智義 (著), 森田 信吾 集英社文庫一コミック版	いわゆる漫画であるが、偉人伝でもある。山極勝三郎先生や、鈴木梅太郎先生の話は中学生の私には印象的でした。
					『精神と物質』★★ 利根川進、立花隆 文春文庫	利根川進博士の大学院時代からノーベル賞受賞にいたる研究の流れをまとめた本です。インタビューをベースに、利根川博士の研究に対する哲学が語られていて、一流の研究者の考え方がよくわかります。適宜分子生物学のバックグラウンドに関する解説が入っているのですが、その解説もとてもわかりやすく楽しく読めるのでおすすめです。
4	研究者と立ち話（ポスター／展示）	防災研究所 准教授 伊藤 喜宏	スロー地震を地震災害軽減に利用する	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『東日本大震災を解き明かす』 NHKサイエンスZERO取材班、古村孝志、伊藤喜宏、辻健 HNK出版	私が防災に関する研究の重要性を再認識した災害でした。
6	研究者と立ち話（ポスター／展示）	iPS細胞研究所 特定拠点助教 杉本 直志	iPS細胞技術による血小板製剤の開発	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『優雅な留学が最高の復讐である』★★ 島岡要 医歯薬出版	留学を題材にして、人生設計の考え方を示してくれる良本でした。
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『村上春樹、河合隼雄に会いに行く』 村上春樹、河合隼雄 岩波書店	心理学と村上春樹の本についてわかった様な気になるお得な本でした。生物学の実験も、心理学の実験も、小説も同じことなんだと理解しました。どれも極端な状況をつくることで、本質をあぶり出していくということであると。
				若者にお勧めしたい本	『天才! 成功する人々の法則』★★ マルコム・グラッドウェル 講談社	原題はOutliersといい、並外れた人たちが生まれた環境背景がこれでもかと例示されます。才能と努力はし環境要素は見逃されがちですが、読むまで気づかなかった環境要素の様々な例は、子育てでのヒントになると感じます。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『再生医療叢書（幹細胞）』★★ 日本再生医療学会 監修 朝倉書店	iPS細胞を含め、幹細胞の生物学から、再生医療まで網羅された充実した書籍です。
7	研究者と立ち話（ポスター／展示）	理学研究科 教授 田中 貴浩	待ちに待った重力波物理学の到来	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『学研の図鑑 宇宙』 学研 『時空のさざ波—重力波を求めて—』 坪野公夫	宇宙すげー、ロケット格好良いなあ。小学校の理科の授業での太陽観測と合わせて、非常に刺激になった。天文ガイド（誠文堂新光社）を買うようになり、下手な天体写真を撮るようになった。 この本がきっかけで、大学院の入試の面接で重力波の話をしました。そのときは自分が重力波の研究をすることになるとは思ってもいなかったのですが。
				若者にお勧めしたい本	『On the Electrodynamics of Moving Bodies』 Albert Einstein	本ではなく論文（原論分の英訳版）だが、こんな風に新しい理論が作られるのか！と感動する。 http://www.fourmilab.ch/etexts/einstein/specrel/www/
				自分の研究に関連して紹介したい本	『重力波をとらえる』 中村卓史、三尾典克、大橋正健 編著 京都大学学術出版会	この本の出版後も様々な研究の発展があるが、重力波を（もうすぐ）とらえるためのバイブルとしていつもそばに置いておきたい。（京都大学学術出版会によると在庫無しだそうです。）

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
11	研究者と立ち話（ポスター／展示）	文学研究科教授	松田 素二	アフリカの潜在力が世界を救う	若者にお勧めしたい本	『アフリカ社会を学ぶ人のために』★★ 松田素二編 世界思想社	多様な民族・言語・生態環境をもつアフリカが体系的にわかる入門書。アフリカの経験してきた過去・困難・絶望のなかから、アフリカの潜在力を描きだし、人類社会の希望と可能性を展望する。21世紀のアフリカを理解するための必携書。
						『日常人類学宣言！』★★ 松田素二 世界思想社	パワフルなフィールドワークと透徹した論理で人類学の閉塞状況を突破する、高らかな маниフェスト。
						『ケニアを知るための55章』★★ 松田素二・津田みわ編 明石書店	エリアスタディーズのシリーズ101番目に刊行された。他に世界各国を知るための本が刊行されている。
					自分の研究に関連して紹介したい本	『紛争をおさめる文化 アフリカ潜在力1』★★ 松田素二・平野（野元）美佐編 京都大学学術出版会	誰もが不完全であることを認める。これこそが、アフリカ文化に内在した世界観である。自らの「完全」性を信じ、それ以外のものへの不寛容や攻撃を「遅れたものを救済する」正義として正当化してきた西洋的近代の誤謬を糺す可能性がそこにはある。緻密な民族誌から、アフリカの日常実践の持つ、紛争を回避し和解を進める力を析出する。
12	研究者と立ち話（ポスター／展示）	エネルギー科学研究科助教	薮塚 武史	生命体の骨格をつくるアパタイトの科学	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『知的生活の方法』★★ 渡部昇一 講談社現代新書	渡部昇一氏の名著。知識人とはどのような人間なのか、そこに近づくにはどのような生活を送ったらよいかを教えてくれたのが本書です。その領域にはまだまだ程遠い私ですが、数々の悩みをやり過ごしながらも、研究と知識で飯を食う生活に憧れを持ち続けることができたのは、本書のおかげだったと今にして思います。絶版ですが、本書の続編「続・知的生活の方法」（講談社現代新書）の方が個人的には好きで、こちらは古書で現在も流通しています。
						『医学生』★★ 南木佳士 文春文庫	著者が秋田大学医学部で実際に医学生だったころをモチーフにして書いたとされる名作中の名作。私は医学部を志したことはありませんでしたが、今にして思えば、本書が医学のお手伝いをする「生体材料学」という分野を志すきっかけの一つだったように思います。エリート養成機関が舞台の話にしては実に泥臭く、切ないエピソードが満載です。人の命をあずかる仕事に就くことの大変さが、内臓をえぐられるかのようなリアルな文章で描かれています。
					今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『人類を変えた素晴らしい10の材料：その内なる宇宙を探検する』★★ マーク・ミーオドヴニク（著） 松井信彦（翻訳） インターシフト	医療、情報、電気、食生活、交通、…私たちは普段何の疑問もなく最新の科学技術を享受しながら日常生活を送っておりますが、それらを根幹で支えているのが「材料」の技術です。本書では鋼鉄、ガラス、紙、プラスチックなど、陰ながら私たちの生活を支えている10の材料にまつわるエピソードがまとめられています。なお第10章では、高齢者の生活を支援するインプラントについて語られています。
						『不屈の棋士』★★ 大川慎太郎 講談社現代新書	近年のコンピュータ将棋の発展には目を見張るものがあります。つい数年前までは「果たしてコンピュータはプロ棋士に勝てるのか」という図式だったのが、現在では「果たしてプロ棋士はコンピュータに勝てるのか」という図式にあっていう間に塗り替えられてしまいました。株式会社ドワンゴ主催の「電王戦」を題材として、プロ棋士がコンピュータと人間との関わり合いについて赤裸々に語った興味深い一冊です。

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
12	研究者と立ち話（ポスター／展示）	エネルギー科学研究科 助教 藪塚 武史	生命体の骨格をつくるアパタイトの科学	若者にお勧めしたい本	『世界で一番美しい分子図鑑』 ★★ セオドア・グレイ（著）ニック・マン（写真）若林文高（監修）武井摩利（訳） 創元社	ベストセラー「世界で一番美しい元素図鑑」の続編。前書では、周期表を題材に「元素」という物質を構成する最小単位について、様々な角度から解説されていましたが、本書では複数の元素（原子）が集まって構成される「分子」に着目し、実生活で使われている身近な「材料」等に着目した内容に仕上がっております。本書に限らず、写真入りの化学書は実に楽しいもので、おすすめです。
					『格闘するものに〇』 ★★ 三浦しをん 新潮文庫	直木賞作家・三浦しをんの処女作。漫画好き文系女子大生の抱腹絶倒就職活動奮戦記です。著者の初期の作品に特有な、ライトなタッチの文章が読者をグイグイ引き込みます。男性の方にも、もちろんおすすめです。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『セラミックバイオマテリアル』 ★★ 岡崎正之・山下仁大（編著） コロナ社	日本を代表するセラミックス系生体材料の第一人者の面々が執筆している本書。この分野の骨子が目白押しでお勧めです。内容が専門的すぎてよくわからない方は、第1章「バイオマテリアルとは」と、各章に時折登場する「コーヒブレイク」という困み記事だけでも是非ご一読いただきたいと思います。セラミックス系生体材料の科学が、単なるマニアックな知識の塊で構成されているのではなく、物語性を持った研究分野であることを感じさせてくれる一冊です。
			『新版ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル』 ★★ 古園 勉・岡田正弘 秀潤社	長きにわたってアパタイトセラミックス研究に携わってきた古園勉先生（近畿大学）と岡田正弘先生（岡山大学）の共著。両氏ともセラミックスが専門ですが、本書の内容は多岐にわたり、プラスチック系生体材料、セラミックス系生体材料、金属系生体材料のほぼすべてがカバーされています。実際の医療現場で使用されている生体材料が写真入りで数多く紹介されています。お医者さんがどのような道具を使って我々の身体を治してくれているのかを知ることができます。		
13	研究者と立ち話（ポスター／展示）	人間・環境学研究科 博士課程1回生 名倉 康太	純有機磁性ナノ粒子の開発と臨床応用	若者にお勧めしたい本	『キラル化学-その起源から最新のキラル材料研究まで』 ★★ 日本化学会編 化学同人	今日のキラル化学に関する最先端の研究を平易に解説している。
					『世界で最も美しい10の科学実験』 ★★ ロバート・P・クリース 日経BP社	科学現象を実験的に解明してきた歴史を分かりやすく解説している。
					『自己組織化と進化の論理-宇宙を貫く複雑系の法則』 ★★ Stuart Kauffman 筑摩書房	非平衡自己組織化の観点から、生命の起源・生物進化・経済システム・民主主義の誕生を解説している。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『対称性-レーダーマンが語る量子から宇宙まで』 ★★ L. M. Lederman, C. T. Hill 白楊社	複雑系の真髄である相転移とそれに伴って発現する対称性の破れについて平易に解説している。

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
19	研究者と立ち話（ポスター／展示）	農学研究科教授 小杉 緑子	桐生水文試験地へようこそ	自分の研究に関連して紹介したい本	『森林飽和-国土の変貌を考える』★★ 太田猛彦 NHK出版	この本には、私の専門分野である「森林水文学」や「砂防学」がこれまで研究してきたことをもとに、日本の森林について、ぜひ皆さんに知って、考えてほしいことがまとめられています。我が国の国土の66%を占める森林が、どのような変遷をたどり、現在どのような状況なのか、また将来どのようにしていけばいいのか、について考えることは、我が国の未来を考えることでもあります。	
21	研究者と立ち話（ポスター／展示）	文学研究科 日本学術振興会特別研究員（PD） 成田 千尋	東アジア国際関係からみた沖縄返還	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『沖縄戦後史』 中野好夫、新崎盛暉 岩波書店	沖縄には本土と全く違う戦後史があったということ、最初に気づかせてくれた本です。1945年から1972年までの米軍統治下の歴史について、主に政治面から記述されています。	
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『琉球独立論—琉球民族のマニフェスト』★★ 松島泰勝 バジリコ	沖縄では独立論を求める人は多数派ではありませんが、数年前から議論が盛んになっています。この本は2014年に出版されたもので、琉球独立について歴史、理念、政治経済、国際関係など多角的なテーマから述べられています。何故現在独立論が出てくるのかということを考えるために、読んでもらいたい一冊です。	
				若者にお勧めしたい本	『沖縄現代史—米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』★★ 櫻澤誠 中央公論新社	戦後から2015年前半までの沖縄の政治、経済、文化などの変遷についてバランスよく描かれています。沖縄の現状がどのような経緯を経てきたのかを知るために、ぜひ読んでもらいたい一冊です。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『冷戦期日韓安全保障関係の形成』★★ 崔慶原 慶応義塾大学出版会	日韓関係がテーマなので、沖縄についてはあまり触れていませんが、日米韓三国の史料を用いて実証的に記述されており、1960年代後半から70年代半ばの日韓関係について知る上でとても参考になる一冊です。	
23	研究者と立ち話（ポスター／展示）	教育学研究科 日本学術振興会特別研究員 西郷 南海子	生きることが「アート」であるということ	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『子どもの美術』★★ 佐藤忠良・安野光雅ほか 復刊ドットコム	「（この本は）じょうずにものを作ったりすることがめあてではありません」という文章から始まる、図工教科書。私は2011年に、絶版になっていたこの本に偶然出会い、衝撃を受けました。なぜなら小学校のとき、私は先生の顔色を見て、先生の気に入りそうな絵を描いていたからです。「教育」とは何かまで考えさせられる1冊です。私の呼びかけで、2013年に復刊を果たしました。	
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『経験としての芸術』★★ ジョン・デューイ（栗田修訳） 晃洋書房	デューイは、芸術を、作品自体（モノ）としてはとらえず、作品の経験への「はたらき」としてとらえました。作者の経験の一部が、鑑賞する人の経験へと流れ込み、相互作用が生まれるのです。何か作品を見たときに「ぐっ」とくる、あるいは「じわじわ」くるあの感覚を、とてもよく表した本だと思います。	
				若者にお勧めしたい本	『アートで平和をつくる 沖縄・佐喜眞美術館の軌跡』★★ 佐喜眞道夫 岩波書店	時事問題としても注目される、沖縄の普天間米軍基地。政府との交渉の末、その敷地の一部を返還させて、美術館を立てた人がいます。この美術館では、丸木位里さん・俊さんなどの作品通じて、人間が人間らしく生きられる世の中を求めています。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『アウトサイダー・アート 現代美術が忘れた「芸術」』★★ 服部正 光文社新書	正規の美術教育を受けなくても、独学で独創的な作品を生み出す人たちがいます。中には精神疾患や知的障がいをもつ人たちもいます。彼ら彼女らの作品からは「作り出さずにはいられない！」という、エネルギーのほとばしりを感じます。	

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
24	研究者と立ち話（ポスター／展示）	学際融合教育研究推進センター 特定准教授 大石毅一郎	元素戦略プロジェクト	自分の研究に関連して紹介したい本	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	元素戦略プロジェクトのプログラムオフィサーが著した本で、「元素戦略」のねらいがわかるように書かれている。
25	研究者と立ち話（ポスター／展示）	京都大学大学院理学研究科助教 吉田 健太郎	超弦理論とはなにか？	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ファインマン物理学〈5〉量子力学』★★ ファインマン、レイトン、サンズ、翻訳：砂川重信 岩波書店	経路積分法の発見者であるファインマンによる量子力学の講義。大学生時代に読んで、深い感銘を受けた。いま読み直しても、尚、その説明の鮮やかさ、洞察の深さに驚嘆するばかり。何度も読み返したい座右の書。
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『数学の大統一に挑む』★★ エドワード フレンケル 文藝春秋	最近、NHKの番組で放送があった。数学者はとっつきにくい人という先入観があったが、この著者は全く異なる。難しい概念を丁寧にわかりやすく説明するために創意工夫をこらし、一般人の視点から初等的な解説を試みる。彼の最先端の仕事に関する概説もあり、とても壮大な本だと思う。
				若者にお勧めしたい本	『超ひも理論をパパに習ってみた天才物理学者・浪速阪教授の70分講義』★★ 橋本 幸士 講談社	超弦理論という研究分野は、非常に高度な数学が必要で、その理解をするためには膨大な勉強時間が必要である。そんなイメージを払拭するがごとく、平易な言葉で明快な説明がなされる。いつか自分の子供たちに、超弦理論の話ができる日が来たらなあ、と思う。親にもお勧めしたい本。
			自分の研究に関連して紹介したい本	『はじめての〈超ひも理論〉』★ 川合 光 講談社	超弦理論の研究における第一人者による一般向けの書。ひもに関する初等的な解説からはじまり、宇宙論的な応用まで話が展開される。イラストも多く、説明も丁寧であり、その文章の勢いに乗って一気に読み通せる。専門家が読んで、その洞察の深さに強い感銘を受ける一冊。	
26	研究者と立ち話（ポスター／展示）	情報学研究科准教授 川嶋 宏彰	視線・表情・間合いを読むコンピュータ	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『愛は脳を活性化する 岩波科学ライブラリー (42)』★★ 松本 元 岩波書店	立花隆の100億年の旅で著者の研究を知って、学部生の頃に読みました。自分で学習して自分で頭がよくなっていく脳型コンピュータやチップが開発されているということに驚きました。Deep Learning が話題の今こそ読み返すと新たな発見があるかも。
				若者にお勧めしたい本	『「少年探偵団」シリーズ』★★ 江戸川乱歩 ポプラ社	小学生のころワクワクしながら読んでいました。小林少年。表紙の絵がまたなんともよかったです。今年からパブリックドメインらしいです。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『SYNC (シンク)』★★ スティーヴン・ストロガッツ（蔵本由紀監修、長尾力訳） 早川書房	蛭はリーダーがなくとも光り方が同期して秩序が現れる。そんな話から始まって、宇宙、生物、脳、物理現象など、いたるところに存在する「同期（シンク）」の謎（原理）に迫ろうとします。周期的なものの同期ではなく、どうやって人同士の、もっと自由度の高い、間の合わせ方などへ展開できるのだろうかと思いつつながら読むのも面白いと思います。

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
29	研究者と立ち話（ポスター／展示）	医学研究科 特定助教 畑中 悠佑	模倣される病——神経回路の病的遷移	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『脳のなかの幽霊』 V・S・ラマチャンドラン 角川文庫	切断された手足がまだあると感じる幻肢、両親を本人と認めず偽物と主張するカプグラ妄想。著者が出会った様々な患者の奇妙な症状を紹介しながら、脳の働きや不思議さに迫っていきます。大脳高次機能、brain science、神経内科に興味を持ったきっかけになった思い出の一冊です。	
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『レナードの朝』★★ オリヴァー・サックス ハヤカワ・ノンフィクション	20世紀初頭に流行した脳炎の後遺症（パーキンソン症状）で、言葉や感情、体の自由が奪われてしまった患者が、奇跡の新薬L-DOPAの投与によって目覚める。しかし副作用で効果は長続きせず…。パーキンソン病に興味を持ったきっかけの一つでした。映画化されていて、ロバート・デ・ニーロの名演が印象的です。本当のパーキンソン病の患者さんも出演しています。	
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『ナチュン（マンガ）』 都留泰作 講談社	事故で左半球を失った、天才数学者・デュラム教授。言語でのコミュニケーションを失った彼はイルカの生態を映したビデオを「論文」として学会に発表する。誰もが嘲笑する中、主人公はそのビデオが人工知能を実現するためのヒントが示されていると気が付き…。沖縄から始まり、脳科学、人工知能、意識の誕生と壮大なスケール。こんな漫画は「火の鳥」以来ですよ！	
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『ピコピコ少年』★★ 押切蓮介 太田出版	No game, No life. あの頃、ゲームがすべてだった自分を思い出します。押切蓮介の描く自伝的ゲーム青春グラフィティ。なお、この漫画は脳科学と全く関係ありません。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『カンデル神経科学』★★ 金澤一郎（監修）、宮下保司（監修）、 Eric R. Kandel, James H. Schwartz, Steven A. Siegelbaum, Thomas M. Jessell, A. J. Hudspeth（編集） メディカルサイエンスインターナショナル	神経科学の入門書の金字塔である『Principles of Neural Science』, 通称『カンデル（E. Kandelが書いたから）』待望の邦訳です。図版も豊富で、分かりやすいです。推薦者も地味に邦訳に参加しているので、是非、手にとってみてください。	
30	研究者と立ち話（ポスター／展示）	工学研究科 教授 乾 晴行	炎を制する——超耐熱構造材料	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『耐熱合金のおはなし』 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減、省エネルギーに寄与しているか、どのようにして材料設計が行われているのかなどについて初心者にもわかりやすく書かれた本で、非常に感銘を受けた。	
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『元素戦略』 中山智弘 ダイヤモンド社	「材料を制する者が世界を制する。」元素を原子スケールでマニピュレートすることで、これまでにない素晴らしい材料をいかに作り上げるかを考えさせられる。	
				若者にお勧めしたい本	『航空の世紀』★★ 吉川康夫 技報堂出版	航空機における耐熱材料の重要性を系統的に理解するのに最適の書。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『金属間化合物入門』★★ 山口正治, 乾 晴行, 伊藤和博 内田老鶴圃	耐熱材料の中のエース、金属間化合物について平易に述べられている。	

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
31	研究者と立ち話（ポスター／展示）	工学研究科 准教授 横川 隆司	機械加工と生体分子で創るナノシステム	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	修士課程の時に留学したUCLAで教科書として使われていました。この本から、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえるようになりました。京大の大学院でも、このような英語の教科書でワールドクラスの講義ができるようになることを期待しています。	
				今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『小説東京帝国大学』 松本 清張 新潮社	移動中など時間を見つけて清張作品を読むのが趣味です。単なる推理小説ばかりでなく、フィクションからノンフィクションまで昭和の闇の部分や人間性についての描写が、日常の喧噪を忘れさせてくれます。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『生体分子モーターの仕組み』 石渡 信一 共立出版	異分野の研究者がモータタンパク質（生体分子モーター）について学ぶのに最適です。日本の研究者が主導してきた、一分子生物物理学の分野からとらえたモータタンパク質についてわかりやすく書かれています。	
34	研究者と立ち話（ポスター／展示）	理学研究科 特定研究員 中村 輝石	素粒子実験って何してんの？	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ホーキング、宇宙を語る』★★ スティーヴン・W. ホーキング 早川書房	なぜか家にあって、高校の時によく分からないながらもワクワクしながら読んでいたのを覚えています。かろうじて分かった相対性理論によると面白い現象がたくさんあって、これが全て科学的に正しいのかと思うと胸が熱くなりました。	
				今ハマっている本（誰かこの本について話したい）	『素粒子実験の世界』★★ 秋本 祐希 洋泉社	つい最近出たばかりの秋本さんの素粒子実験紹介本。こちらイラスト満載、というか四コマ漫画形式なので老若男女問わず楽しめます。内容も最近発見された重力波や梶田さんのノーベル賞受賞となったニュートリノ振動なども載ってます。	
				若者にお勧めしたい本	『宇宙素粒子物理学』★★ クラウス・グルーベン 丸善出版	宇宙・素粒子の最先端な面白い話がだいたい書いてあります。宇宙や素粒子に進もうかなと考えている学生さんは一度読んでみて下さい。楽しそうな分野が多すぎて進路を決めるのが悩ましくなります（笑）	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『素粒子の世界』★★ 秋本 祐希 洋泉社 『場の量子論』★★ 坂本真人 裳華房	宇宙素粒子の最先端の実験がかわいいイラストつきで（←重要）色々紹介してあります。素粒子実験に興味があるならとっても参考になります。ちなみに、私が博士号を取得したNEWAGE実験についても書いてあります。 読者を突き放さない系の素粒子の教科書です。この本の出版数が伸びたら続編が出るらしく、周囲の人にしきりに勧める学生がいるとかいないとか。	
35	研究者と立ち話（ポスター／展示）	物質－細胞統合システム拠点 特定研究員 城 綾実	科学とアートの"想像力"が出会うとき	若者にお勧めしたい本	『科学技術Xの謎-天文・医療・文化財、あらゆるものの姿をあらわすX線にせまる』★★ 京都大学総合博物館（監修），塩瀬 隆之，元木 環，水町 衣里，戸田 健太郎（編） 化学同人	この本の前半は「X線を使った研究を美しく見せる」ということにこだわったコーナーです。ぜひ手にとってご覧ください。出展メンバーの水町より。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『子育ての会話分析-おとなと子ども「責任」はどう育つか』★★ 高田明，嶋田容子，川島理恵（編） 昭和堂	日常の何気ないふるまいに面白さや美しさを感じて研究する人たちがいます。私もその一人です。この本は、子育てを対象とした研究の成果がまとめられています。難しい部分もありますが、子育て中の人、子育てがひと段落した人、これから子育てをするかもしれない人に読んでいただきたいです。そして、その感想を共有できれば、研究と社会がもっと強く結びつく気がします。出展代表者の城より。	

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
36	研究者と立ち話（ポスター／展示）	文学研究科 研究員 大庭 弘継	人道のための戦争？よりマシな悪を選ぶ	自分の研究に関連して紹介したい本	『国際政治のモラル・アポリアー — 戦争/平和と揺らぐ倫理』★★ 高橋良輔・大庭弘継編 ナカニシヤ出版	問題解決を目指す前に、なぜ多くの努力が払われてきた国際政治の問題が解決しないのか、を探究した学術書です（自画自賛）。国際政治が直面している解決できない問題（アポリア）を、人道的介入、対テロ戦争、核廃絶、防衛戦争、平和構築、民主化、国家主権、人権のトピックごとに議論しています。なお本書の執筆は、深夜までの激論を支えてくれた酒の神（バッカス）のご尽力の賜物でもあります。記して感謝します。	
					『正しい戦争はあるのか？—戦争倫理学入門』★★ 眞嶋俊造 大隅書店	西洋哲学が培ってきた正戦論を整理したうえで、現代の戦争が抱える正しくない部分を明らかにし、「制戦論」（戦争を正当化する論理ではなく、戦争を制限するための論理）への再構築を目指した入門書／学術書です。なお戦争を扱うというだけで白眼視されることも多いのですが、本書で筆者が語る、高名な先生にディスられたというエピソードは、一部界限で話題をさらっております。	
					『人道的介入：秩序と正義、武力と外交』★★ 小松志朗 早稲田大学出版部	人道的介入の事例を紹介するとともに、その成功条件を、政府と軍隊のコミュニケーションに着目分析した学術書です。本書に対し、高名な先生は書評で、人道的介入ではなく人道危機の原因の除去が重要だ、と批判しています。ですが、予防も重要だが悲劇が生じた場合の対処も必要じゃないのか、と出展者は違和感を感じました。なお高名な先生の書評は、厳しい批判を求めた筆者御自身の指名です。それでもショックのようでした。	
37	研究者と立ち話（ポスター／展示）	工学研究科 教授 竹脇 出	繰返す震度7地震に対する建物の耐震性	若者にお勧めしたい本	『理系のための独創的発想法』 ア・ベ・ミグダル著、永田好弘訳 東京図書、1992年	「科学における創造の動機」、「どのように科学的探究を行えばよいのか」などの項目を通じて、科学者にとって独創性・創造性が如何に重要で、それを育むにはどうすればよいかについて、わかりやすくかつ興味深く書かれています。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『研究と独創性』 学術月報編集委員会編 日本学術振興会、1991年	独創的研究とは何かについて、ノーベル賞・フィールズ賞受賞者を含む多くの研究者の意見をまとめています。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『図解・超高層ビルのしくみ』★ Blue Backs, 鹿島編, 2010年	超高層ビルのしくみについて、建物耐震設計の歴史から読み解いています。昭和初期の柔剛論争から、最新の制振構造に至る幅広い内容を含んでいます。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『みんなが知りたい超高層ビルの秘密』★★ 尾島俊雄・小林昌一・小林紳也 サイエンス・アイ新書, 2010年	超高層ビルのしくみについて、構造安全性だけでなく、実際の施工方法や維持管理についてわかりやすく解説しています。また、超高層ビルの高さの限界や地下の深さの限界など、興味深い内容についても触れています。	

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
37	研究者と立ち話（ポスター／展示）	工学研究科教授 竹脇 出	繰返す震度7地震に対する建物の耐震性	自分の研究に関連して紹介したい本	『東京スカイツリーの科学』★★ 平塚桂・たかぎみ江 サイエンス・アイ新書, 2012年	東京スカイツリーについて、「どうやって設計したか?」、「どうやって建てたか?」、「設備はどんなになっているか?」などについて、初心者向けにわかりやすく書かれています。	
					『材料力学史』★★ SPティモシェンコ著, 最上武雄・川口昌宏訳 鹿島出版会, 1974年	材料力学は、構造物を安全に設計する際の基礎をなす学問である。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ガリレオ・ガリレイから始まり、17世紀から20世紀に至る材料力学の歴史的発展を興味深く解説しています。	
					『Improving the Earthquake Resilience of Buildings: The worst case approach』 I.Takewaki, A.Moustafa and K.Fujita Springer (London), July, 2012	建物の地震に対するレジリエンスを向上させるための方法について解説した英語の本です。建物の地震に対するレジリエンスについて論じた本は世界的にもめずらしく、世界各国の研究者に広く読まれています。この本は、2014年の日本建築学会著作賞を受賞しています。	
					『Critical Excitation Methods in Earthquake Engineering, Second Edition』 I.Takewaki Elsevier, 2013	建物の最悪地震動について英語で解説しています。建物の最悪地震動に関する本は世界でもめずらしく、世界各国の研究者に広く読まれています。	
					『超高層ビルの簡易動的設計法：簡易耐震診断および簡易耐震補強』★★ 高島秀雄, 北田幸彦, 竹脇 出 鹿島出版会, 2016年	南海トラフ地震などの長周期地震動を受ける建物の挙動を簡単なPCソフトを用いて実体験できます。	
43	研究者と立ち話（ポスター／展示）	人間・環境学 研究科 日本学術振興会特別研究員 PD 林 智昭	英語も生きている！	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『認知言語学原理』 山梨正明 くろしお出版	身の回りに溢れる言語表現を取り上げ、認知科学の一分野としての言語学の立場から、一貫したアプローチに基づき分析を行う。言語研究の魅力とともに、学問に臨む上での姿勢を絶えず批判的に検討し、研究に従事する山梨先生の言語観・人生観が詰まった名著。大学院へ進学する前後の時期、理論言語学に触れるきっかけとなり、言語研究への姿勢を教わった一冊。	
				今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『世界に通用しない英語 あなたの教室英語、大丈夫?』★★ 八木克正 開拓社	教室で教えられている英語は、どんな英語なのだろうか。本書では、学習文法の歴史、学習・英和辞典の記述をめぐる問題点をまとめ、英語語法研究の最前線を走る研究者の視点から「教室英語」への積極的な提言が行われている。英語教育への疑念を抱いているあなたに、考えるきっかけを提示してくれる一冊。	
				若者にお勧めしたい本	『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー（英語学モノグラフシリーズ第20巻）』★★ 谷口一美 研究社	1980年代以降、概念メタファー、メタファー写像、イメージ・スキーマなどの研究が盛んになった。これらの理論的 개념の背景と主旨を、主要な文献を取り上げ、丁寧に紹介していく。何事に対しても真摯に向き合う谷口先生の謙虚な姿勢から、言語現象のみならず、学問に対する研究者としてのあり方を学んだ一冊。	
			自分の研究に関連して紹介したい本	『英語の歴史 過去から未来への物語』★★ 寺澤盾 中央公論新社	英語に借用語が多い理由は? 綴り (spelling) と発音の繋がりが見えにくい理由は? 英語を学ぶ過程で抱く、素朴な疑問の数々を紐解く手がかりを、その歴史が教えてくれることがある。今日の世界共通語である英語は、昔からその地位にあったわけではない。現代英語へ至るまでの変化の歴史を、本書はわかりやすく丁寧に教えてくれる。長年の疑問に答えてくれること請け合いである。		

ブース番号	出展区分	出展代表者 所属・職名・氏名	出展タイトル	推薦図書		
				ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
45	研究者と立ち話 (ポスター/展示)	教育学研究科 日本学術振興会特別研究員 PD 清水 美里	ダムから考える植民地台湾	今ハマっている本 (誰かとこの本について話したい)	『開発を問い直す—転換する世界と日本の国際協力』★★ 西川潤ほか編 日本評論社	開発援助や復興支援が応援する側の独りよがりにならないために考える本です。とくに第12章「声なき声を聴く」踏査のために(平山恵)は秀逸です。なぜ格差が生まれ、なぜ平和が乱されるのか、現地のニーズにそった開発援助や復興支援のためには何が必要か、具体的事例から考えさせられます。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『帝国日本の「開発」と植民地台湾—台湾の嘉南大川と日月潭発電所』★★ 清水美里 有志舎	推薦者の約10年間の研究成果です。学部卒論からダム開発について考え、大学院から植民地とは何かを問いに研究してきました。歴史認識問題の解決やより良い開発援助の形を考える時、参考にしてほしい本です。
47	研究者と立ち話 (ポスター/展示)	東南アジア研究所 連携助教 紺屋 あかり	南の島に生きる	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『文化と両義性』★★ 山口昌男 岩波現代文庫	70年代の日本の文化人類学を代表する一冊。「中心と周縁」という概念を軸とした、新しい文化理論を提起するもの。「違和」と「異和」の違いって何だろう?!文化や社会への見方を広げるための訓練書。
				今ハマっている本 (誰かとこの本について話したい)	『周辺民族の現在』★★ 清水昭俊 世界思想社	以下に引用する文章が研究のきっかけといっても過言ではありません。「周辺民族は、世界の構造の中でほとんど見るべき役割を果たしていないがゆえに無視してよい存在なのではない。事実とは全く逆である。彼らは世界の構造的な中心から不可視にされた存在であり、それゆえに、彼らの存在自体が世界の構造の不可視の存在を代表している。(中略)この意味で、不可視の存在である周辺民族を認識することなしには、現代世界を理解することはできない」
				若者にお勧めしたい本	『西太平洋の遠洋航海者』★★ プロニスワフ・マリノフスキ 講談社学術文庫	人と出来事と自然のつながりを考える本。ポストブルーラル人類学と呼ばれる新しい学問的潮流を提示する一冊。「彼らの視点」と「私たちの視点」が共立する時、一体何が見えるのか?
				自分の研究に関連して紹介したい本	『知の大洋へ、大洋の知へ! 太平洋島嶼国の近代と知的ビッグバン』★★ 塩田光基 彩流社	今、太平洋地域社会で何が起きているのか?!宗教、ジェンダー、権力、集団性など様々なテーマから島嶼世界を読み解く、島の現在を知るための必読書。
				『Forests of Fortune? The Environmental History of Southeast Borneo, 1600-1880 Knappen, Han KITLV Press	1600年から1880年のボルネオ島南東地域のバリト川流域を中心とする一帯が本書の舞台です。この地域における林産物取引を含む、在地民による森林利用と彼ら生業経済・儀礼・家族構成などの生活の変遷から、熱帯雨林の環境の変化を分析した本書は、歴史研究における港市分析以外のアーリーナを提示している点で人類学者にとっても読みごたえのある1冊です。	
48	研究者と立ち話 (ポスター/展示)	理学研究科 教授 杉山 弘	遺伝子スイッチでガンを治す	自分の研究に関連して紹介したい本	『基礎ケミカルバイオロジー』 杉山 弘・板東俊和 化学同人	生物、化学、薬学的な視点から高校生~大学生に向けて、DNA,RNA、タンパク質の構造と機能に関して分かりやすく説明しています。ケミカルバイオロジーという学問の入門書として本著を推薦します。

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
49	研究者と立ち話（ポスター／展示）	情報学研究科 助教 佐藤 彰洋	地域の持続可能性を計る	自分の研究に関連して紹介したい本	『Applied Data-Centric Social Sciences』 Aki-Hiro Sato Springer, Japan	2014年に発表者が出版した著書。データに基づく社会経済システムの研究に関するアイデア、方法論、分析結果をまとめた書籍です。今回紹介する地域の持続性を測るための仕組みMESHSTATSはこの書籍にある方法論と技術を用いて実現されています。	
					『金融市場の高頻度データ分析—データ処理・モデリング・実証分析—』★★ 林高樹・佐藤彰洋 朝倉書店	2016年7月に発表者が著者のひとりとして出版した書籍です。金融市場の時系列データ分析に関する分析方法、モデリング、実証分析の結果について紹介しています。手軽にデータ分析の勉強を始めた方にお勧めの一冊です。	
50	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	物質—細胞統合システム拠点 拠点長・教授 北川 進	ナノ空間の世界と化学	若者にお勧めしたい本	『化学物質はなぜ嫌われるのか』★★ 佐藤 健太郎 技術評論社	科学には負の側面が付き物ではあるが、時として根拠のない偏見により強調されがちである。科学技術の恩恵とリスクに対してどのように向き合っていくべきか、本書ではそうした負の側面の代表格と言える「化学物質」に焦点を当てて分かりやすく解説している。	
					『実験室の笑える?笑えない!事故実例集』★★ 田中陵二・松本英之 講談社	化学実験(特に有機化学)で起こりがちな実験事故事例を紹介しています。プロ向けの指導書というよりは化学に興味のある高校生、学生実験を控えた大学1~2年生向けのちょっとした読み物と言えます。やや真面目さに欠ける点がありますが、むしろこの位の方が印象に残りやすいのではないかと思います。	
					『集積型金属錯体』 北川 進 講談社	ナノ空間は単なる小さな空間ではなく、設計により特異な構造と機能を発現させることが出来る。ナノ空間を創生するための代表的手法である集積型金属錯体を設計・構築するための基礎理論・実例を解説した研究者向けのバイブルです。	
				『革新的な多孔質材料』★★ 日本化学会 化学同人	ナノ空間の化学の研究トレンドを基礎から先端研究まで広く紹介しています。この分野の入門として最適な一冊です。		
51	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	経済学研究科 准教授 坂出 健	国際政治経済学への招待状	若者にお勧めしたい本	『ウェストファリアは終わらない—国際政治と主権国家』★★ 柴田純志 虹有社	「1618年～年三十年戦争、1648年ウェストファリア条約」と世界史の授業で暗記したおぼえのある方もおられるでしょう。ここで成立した「ウェストファリア体制＝主権国家体制（主権国家が相互の主権を認め合う体制）」の歴史的・理論的評価は、今日の国際紛争（イスラム国の活動等）を分析する上で大きな意味を持ちます。この点についてコンパクトにまとめられた良書です。	
52	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	生態学研究センター 教授 中野 伸一	琵琶湖にひそむちょっと変わった食物連鎖	自分の研究に関連して紹介したい本	『地球を「売り物」にする人たち—異常気象がもたらす不都合な「現実」』★★ マッケンジー・ファンク(著), 柴田 裕之(翻訳) ダイヤモンド社	地球温暖化は、我々人類が避けて通れない環境問題であり社会問題である。本書は、変わりゆく地球環境に柔軟に対応して、しぶとく生き抜く人間たちを紹介している。このように書くとポジティブな印象となるが、環境科学の研究に携わる身としては、勉強になるとはいえ、複雑な気持ちを抱かせる一冊である。	

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
54	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	福井謙一記念研究センター・シニアリサーチフェロー（名誉教授） 榊 茂好		自動車触媒とコンピュータ計算化学	自分の研究に関連して紹介したい本	『物理化学（上）（下）』★★ マッカーリ・サイモン 東京化学同人	標準的な物理化学の教科書
55	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	教育学研究科教授 鈴木 晶子	人工知能は社会や学校をどう変えるか	今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『図説 鉄腕アトム』★★ 森 晴路 河出書房新社	心やさしい科学の子、心正しい科学の子として登場した鉄腕アトムのことがわかる本。アトム誕生のエピソードや御茶ノ水博士のことなどなど、アトムの情報が満載です。また、手塚治虫がアトムに託して伝えようとしたことを考えさせてくれます。人工知能やロボットのことを考えるときに鉄腕アトムの存在は欠かせません。未来社会を議論するための助けとなる一書です。	
				若者にお勧めしたい本	『アンドロイドは人間になれるか』★★ 石黒 浩 文春新書	マツコロイドの生みの親でもある世界的ロボット工学者・石黒浩。本書では、アンドロイドと人間の境界線という現代的な問いについて、わたしたちの常識を覆すような議論が展開されています。「人の気持ちを考える」ということを徹底的に突き詰めた先には、果たしてどのような世界が開かれるのか。人工知能やロボットが急速に発展する今だからこそ、お勧めしたい一冊です。	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『智恵なすわざの再生へ - 科学の原罪』★★ 鈴木晶子 ミネルヴァ書房	3.11以降の日本で、科学・技術と人間はどのように付き合っていったらよいか、という思いに突き動かされ、『星の王子さま』の言葉に促されつつ、哲学・倫理・教育の観点から綴りました。人工知能をはじめとする先端的な技術文明と人間との共生・共進化をしていくための智恵を探ります。	
					『日本人のための科学論』 毛利衛 PHPサイエンス・ワールド新書	推薦者の鈴木晶子は日本未来館館長で、初の日本人宇宙飛行士の毛利衛さんとは、科学コミュニケーション推進のために色々なサイエンス・カフェなどを企画してきました。本書では、彼が宇宙で掴んだ科学技術のエッセンス、科学未来館のことが盛り込まれています。後半では、科学コミュニケーションの未来や、科学とアートについて毛利さんと鈴木さんの対談を載せています。	
57	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	原子炉実験所助教 谷垣 実	福島を見守る「目」	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『相対性理論の考え方』 J.L.シンジ 講談社	高校時代に読みあさったブルーバックスの中でも一番印象に残っている。女王の浮気疑惑に悩む王様の話から同時性の説明をする話など、相対論での物事の捉え方が丁寧に説明され、これを読んだ当時の私にも物理をやってる人の頭の中が少し見えたような気がした。	
				若者にお勧めしたい本	『ファインマン物理学 1～5』★★ R. P. ファインマン 岩波書店	自分なりの物理の捉え方を育ててくれた大事なシリーズ。特に量子力学を何度もなんども読み返したのは学部時代の良い思い出。講義の書き起こしながら大変読みやすい日本語訳も魅力。最近ネットで英語版が無料公開されているので、それに挑戦してみるのもいいかも？	
					『誰のためのデザイン？—認知科学者のデザイン原論』★★ D.A.ノーマン 新曜社	身近な道具に潜むデザインの問題を、道具はユーザのための良いデザインとは？という観点から捉えた本。その根底には「本来の目的を正しく見据えた最適なアプローチ」という考えが貫かれており、デザインを超えた普遍的な物事に取り組む時のあるべき姿勢が示されていると思います。	

ブース番号	出展区分	出展代表者		出展タイトル	推薦図書			
		所属・職名・氏名			ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等	
登壇者	お茶を片手に座談会	宇宙総合学研究ユニット 特定研究員 呉羽 真		進撃の巨大科学	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『プラネテス（全4巻）』★★ 幸村誠 講談社	いま宇宙開発について研究していますが、最初に興味を持ったきっかけはこの本だったと思います。	
					今ハマっている本（誰かとこの本について話したい）	『パンダが来た道』★★ ヘンリー・ニコルズ 白水社	パンダというのんきな動物が人間の都合に翻弄されてきた経緯を、パンダの生息地である中国の浮沈や保護活動の歴史・現状と合わせて解説した本です。パンダを通して人間のあり方を見つめ直させてくれます。パンダ関連の本はいろいろ読みましたが、本書がベストです。	
						『マイコフィリア』★★ ユージニア・ボーン バイインターナショナル	キノコ好きの著者（フードライター）がキノコの魅力を紹介した本です。目くるめくキノコワールドに圧倒されます。	
						『〈文化〉を捉え直す』★★ 渡辺靖 岩波書店	グローバル化を背景に「文化」というものが提起する諸問題について論じた本です。読み応えがあり、勉強になりました。	
						若者にお勧めしたい本	『日の名残り』★★ カズオ・イシグロ 早川書房	この著者は『わたしを離さないで』が有名ですが、わたしはこっちのほうが好きです。
						自分の研究に関連して紹介したい本	『生まれながらのサイボーグ』★★ アンディ・クラーク（著）、呉羽真ほか（訳） 春秋社	わたしが訳した本です。認知科学・認知技術の話題と哲学の手法をベースに、「人間は生まれながらのサイボーグだ」という驚きの主張を展開する、野心的な本です。原書で読んであまりにも面白かったので、自分で翻訳しました。買ってください。
『偶然の宇宙』★★ 伊藤邦武 岩波書店	わたしの学生時代の先生（哲学者）が書いた本です。「わたしたちが存在するこの宇宙は、偶然の産物なのか？」という深遠すぎる問いについて論じています。とはいえ、それに答えを出すよりは、この問いを前にして立ちすくむ人間の姿を描こうとした作品だと思っています。読んでたやすく理解できる代物ではないですが、哲学という学問の深みを味わえます。							



Dialog with the Public



生協ショップルネ書籍コーナーにて「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

(場所：京都大学西部生協会館ルネ1階)